

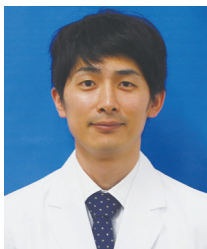
外科専門医に聞く

内視鏡外科部長

くらす とおる
倉田 徹



最近の外科の取組み



近年、腹部外科の領域において、腹腔鏡下手術が非常に普及してきました。腹腔鏡下手術とは、おなかの中を炭酸ガスでふくらませて、腹腔鏡という径5mm～1cmの細いカメラを入れて行う手術です。これまでのような20～30cmといった大きな皮膚切開による開腹は行わずに、5mm～1cmの切開を数箇所作り、その穴から腹腔鏡（カメラ）や鉗子（細長い手術器械）を入れて、おなかの中が映し出されたテレビモニターを見ながら手術を行います。もともと腹腔鏡下手術は胆石症に対する手術として始まりましたが、現在は胃がん・大腸がんなどの悪性腫瘍に対しても行われ、保険適応として認められています。その利点としては、開腹手術と比べ手術後の痛みが軽く、回復が非常に早いことが挙げられます。また、傷も目立たず、美容的にも有効です。手術する側にとっては、操作するところがカメラで非常に拡大して見えるのでより繊細な手術ができ、出血量も少ないといったメリットがあります。病気の進行の程度や患者さんの状態によっては行えないこともありますが、当院では可能な限り患者さんに負担の少ない腹腔鏡下手術を勧めています。今年も、胆石症手術の約90%、胃がん手術の約70%、大腸がん手術の約80%、鼠径ヘルニア手術の約70%で腹腔鏡手術を施行しており、急性虫垂炎や腸閉塞といった急性疾患にも適応を広げています。

また、最近の取り組みとして、傷の治りを促進する治療を勧めています。手術を受けられた患者さんの中には、手術の内容や患者さんの状態によって、傷口が感染（化膿）したり治りが悪い方がおられます。そうした場合、専門の看護師と協力して、陰圧閉鎖療法という特殊な器械を使い傷に圧をかけて治りを促進する治療を行なっています。ご不明な点やご質問があれば、遠慮なく外科担当医にお尋ねください。



【令和元年度 魚津市市民公開講座のお知らせ】

テーマ 「高齢者の転倒 ～その予防と治療～」

日時 令和元年9月8日（日）13:30～15:30

場所 新川文化ホール 小ホール

入場無料
ミラたん健康ポイントが
もらえる！



※ご家族も一緒に気軽に話を聞きに来てください。